

令和4年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
1 授業実践力の向上	① 児童生徒の目指す姿を単元レベルで位置づけ「自ら考え、学びに向かう授業」の実現に取り組む。	研究研修課	昨年度の学校研究の成果として単元計画の見直しの重要性が共通理解された。また、課題として目指す姿の明確化が挙げられた。このことから、児童生徒の目指す姿を単元レベルで位置づけ、単元内で研究授業→改善授業を行い、単元計画の見直しを継続的に取り組む必要がある。	【努力指標】 児童生徒の目指す姿を明確化した単元計画の作成、見直しに取り組む。	児童生徒の目指す姿を明確化した単元計画の作成と、単元終了後の見直しを各期1つ以上年間3つ以上行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)
	② 児童生徒が主体的にタブレット端末やICT機器を活用できる授業に取り組む。	情報教育課	GIGAスクール構想2年目である今年度より、高等部の生徒にも1人1台のタブレット端末が配付され、すべての児童生徒がタブレット端末やICT機器を活用できる授業づくりに取り組む必要がある。	【努力指標】 児童生徒がタブレット端末やICT機器を活用する授業に取り組む。	児童生徒がタブレット端末やICT機器を活用する授業を行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)
2 組織的・系統的なキャリア教育	① 児童生徒が家庭での役割「チャレンジカード」の取り組みを年2回実施する。実施後、各家庭での支援方法や手順、反省点等を集約して、全保護者に情報提供し、活用できるようにすることで学校と家庭とが連携したキャリア教育に取り組む。	小学部 中学部 高等部	キャリア教育の実践で、家庭を含めた一般化を目標とし、令和2～3年度に児童生徒の家庭での役割への意欲が育つように年2回「チャレンジカード」の取り組みを実施した。その目標は各学部とも概ね達成できたが、ステップアップした新しい目標の達成が難しいとの課題が見え、改善に向けた取り組みを行いたい。	【成果指標】 学校と連携して各家庭で児童生徒が自分の役割に取り組む、その内容を学校へ情報提供や、学校から得られた他の家庭の情報を活用する。	各家庭で児童生徒が自分の役割に取り組む、学校への情報提供や学校から得られた他の家庭の情報を活用することができた家庭の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	保護者を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
3 安心・安全な学校づくり	① 児童生徒が自分や友達を大切にしながら、他者との適切な関係づくりができる学びに取り組む。	生徒指導課 中学部 高等部	(中・高の一部の生徒対象) スマートフォン所持者やオンラインゲーム等で日常的にネットワークを使用している生徒が増加している。他者との不適切な内容のやりとりなどの課題があり、これらに対応する学習に継続的に取り組む必要がある。	【努力指標】 各学級で、SNSを含めたネットワーク使用において、他者とのやりとりを適切に行う学習に取り組む。	(対象となる生徒に対して) ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を、各期に1回以上取り組んだ学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	学級担任を対象としたアンケートによる評価(9、1月)
	②	小学部 中学部 高等部	本校では、継続的に「性に関する指導」に取り組んでいる。校内で作成した教材を活用したり、新たな取り組み事例も出てきている。さらなる定着化とともに、児童生徒の意識変化につなげる取り組みたい。	【努力指標】 自分や友達の心や体を大切にすることを意識づけができる学習に取り組む。	児童生徒が、自分や友達の心や体を大切にすることを意識が見られた学習を各期に1回以上実践した学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	学級担任を対象としたアンケートによる評価(9、1月)
4 業務の効率化	① 学級経営や校務分掌において、各業務を計画的に実行することで、業務の平準化に取り組む。	全教員	教員の多くは、授業準備や学級業務、各課業務を並行して行っている。それぞれの業務が一時的に重複すると、大幅に時間外勤務が増加する傾向があり、個々の業務を計画的に実行することで、効率的かつ平準化する必要がある。	【努力指標】 各教員が学期に2回以上、個々の業務を可視化されたスケジュールを作成し、実行する。	各業務で可視化されたスケジュールを作成して実行した回数が、各期に2回以上の教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価(9、1月)